

令和6年 7月吉野町教育委員会臨時会議 会議録

日 時：令和6年7月25日(木) 午後1時00分～ 場 所：町中央公民館4F教育長室

出席者：吉野町教育委員会 教育長 委員3名 欠席1名

事務局 5名

1開会挨拶

2報告案件

報第1号 園バスの物損事故について 別紙資料

委員：バスがバックの際の衝突時に生じた後、走行中のダメージに依りガラスが割れたとの事だが、かなりひどい具合に割れていたのか。

事務局：教委に受けた報告では、損傷したハッチバックの少し上部に握り拳大の穴が開いた。周囲は蜘蛛の巣状の亀裂が生じていたとのこと。少ししか穴が開いていないという誤った認識で、そのまま送迎を優先してしまったということ。

委員：待っている保護者の元へ早く送り届けたいという気持ちも有ったかとは思われるが、バス後部破損という異状事態でもその様な判断を優先したことが一番のベース箇所だと思われる。ちょっと擦ったとかいう程度ではなく、やはり重大な事。このバスにはバックカメラは搭載されていないのか。

事務局：搭載されていないと思われる（後日搭載されている事を確認済）。

委員：今回はコンテナと衝突した車の破損であったけれども、バックの際に子どもが居た場合の案件も想定される。様々な対策があると思われるが、カメラで見ながらバックしていたとすればこの様な事にはなっていなかつたかもしれない。バックカメラが搭載されていない車が、実際に園の送迎に使用されているという点も、今後を考慮した際に、やはり解決すべき問題であると思われる。「子どもを送迎する」という大きな目的を遂行する上で、今回の様な予期せぬ事象が発生した際の、『行動規範』が必要になってくるのではないか。ガラスが破損した車を目撃した第三者等がスマホ等で拡散することも想定される。本件を冷静且つ客観的に受け止め管理体制を考え直さなければならぬのではないか。事故が発生した翌日の教育委員会会議でも、我々委員は今件に関して何も報告を受けていない。地域の方々からの情報をもたらされた際に、「知らなかつた」というのは非常に哀しく思う。詳しい調査は大切なことだが、良いことも悪いことも含め、可能な限り情報共有をお願いしたい。

委員：事故当日の木曜夕方には当該園児の母親から経緯を伺い、園児含め誰も怪我をした者がいなかつたことも確認している。送迎するのが祖母か母親かの違いだと思われるが、家庭によって電話連絡の有無が発生していると伺っている。連絡するのであれば、やはり必ず乗っていた園児全員の家庭に連絡を入れて欲しかった。こども園に入園している、ということは親元から初めて離れて預けられているという事。園の先生方と毎日話ができる訳ではないので、連絡帳が大きなツールになっているが、今回のことば、報告があつてほしかった。事故翌日ぐらいの報告を期待したが1週間経過しても何も報告が無い。現在は保護者同士SNS等で繋がつて色々と情報共有しており、不安だったと伺っている。まだ途中段階の情報でも構わないので、全世帯に「この様な事故がありました。少々対処が遅れましたけれど、ご安心ください」の一言が有れば、保護者は安堵されたと思う。バスの破損部分のみを見た場合小さな規模のものかもしれない。だが、怪我が無かつたとはいえ、大切に養育されている

お子さんを預かっている、という観点から、もう少しきめ細やかに対処頂けたらと思う。事故翌日の定例教育委員会開催時に今件の説明・報告が無く、我々委員を信頼頂いていないのではないか、と少々寂しく感じた。面倒かもしれないが逐一報告共有して頂ければ、保護者への対処方法もまた変わっていたのではないかと考える。

委員：当日園長が校園長会出席で不在のため、副園長がバスに添乗されていたとの報告だが、当日の責任者が当事者であったが故に園に連絡せず自分で判断する分には正しかったのでは、と私は思う。例えば更に大きな事故が発生した場合、園長が近隣にいなかった場合等は誰が判断するのか。やはり副園長であると思われる。バス運転手とも相談し安全を確認して走行した際に、少々亀裂が拡がってきた為一旦停車したあとすぐに園へ戻ってきた事は、判断として正しかったと思う。

教育長：我々教育委員会としては「子どもを乗せている」ということもあり、事故後そのまま運行を継続した事実に対し賢明な判断だったのか、少々疑念を抱いている。だからといって副園長一人に是非の全てを押しつけることはできない。

委員：お詫び文書の本文中に記載の「事故発生日には、乗車園児の保護者様に事故の顛末についてご報告とお詫びを申し上げ対応している」との記載だが、全員がその様に思っていないのではないか。

教育長：園まで迎えに来られた方、祖母ないし保護者…母親が直接迎えに来られた家庭も有り迎えに来て頂いた方に対しその場で口頭により説明したと認識している。祖母に来て頂いた場合は、保護者様に直接連絡しなければならないという気持ちで、直接電話させて頂いた。全く話をしていない家庭はない、と認識している。

委員：やはり事故に対して、まず関わった人たちが適切な判断をしたのか否か、という点が論点になると思われる。バス運転手は最終的に組織・会社が判断するところ。教育委員会側としては、副園長は動転されていたとしても園長への電話報告は可能と思われる。幾ら現場で解決済と判断しても、緊急案件の為当然電話して然るべきであったが、その電話もなされなかった。仮に園長がその報告を受け取ったと仮定した場合恐らく何らかの指示を出すと思われるが、そのような対応が出来なかった。その判断が一番原点になると思う。今迄経緯をお伺いした限り、やはり副園長の下した判断は間違いであったと思われる。先程別委員からは肯定意見も出されたが、その判断は大事なところ。

教育長：教委の判断としては、軽微であったとしても園児を乗せての事業運行中の出来事であり、事故が起った場合、その場で動かず、警察或いは所属機関に報告する、という事がまずマニュアル的に一番大事かと思っている。今回のような場合は結果的に運行不可となったので、きちんと警察へ届け、園にも対応指示を受けるという判断が必要であった。対応に当たる教職員は、有事の際に動転せず冷静な判断を下せる様な訓練をしておかないといけないという事を根底に置いて、保護者宛の文章を作成させて頂いた。本件の課題は今後明確化し、何か不測の事態が発生した際に、動転せず冷静な判断を下せる研修をしていきたい。「子どもを守っていくのは、その場の大人の判断」ということを、念頭において考えなければならない。自損であったとしても届をせず立ち去ったということであり、何も問題なかったと容認するわけにはいかない。本日この委員会で承認頂ければ、保護者様にこの文書を配付したいと思っている。

委員：今回、まだバス停へ向かっていない保護者へは電話連絡がとれると思うが、既に迎えに出られた家庭が有った場合はどうするのか。ずっとバス停で待っているとしたらどのように連絡するのか。

教育長：方法としては他の車を出して現場対応すると考えられる。まずは連絡を取り合い、連絡が取れなければすぐ対応すると云う形になると思われる。

委員：今回の様な、特に職員1人が動転して間違った行動をとった場合、やはり一番肝心なことは、組織としての連携。そういう体制を構築する、或いはどう対応していくかという意識をそれぞれ職員が培うよう平常時からの訓練が大事かと考える。特に学校現場の弱点が浮き彫りとなったのが今回の事例だと思う。組織としてその弱点をフォローしていく方法を作って頂きたい、と感じている。

教育長：今後、不審者や防災関係の大きな被害が出る可能性もある。それらを想定して訓練する準備をしておくことは必要かと思う。本件を契機に、個人を問責するのではなく組織として研修を実施し、より安全を担保できる形を作っていくと考えており、その事は園側も重々理解してくれている。

委員：コドモン（園と保護者との連絡ツール）の連絡機能を使えば、バスに何らかのトラブルで遅延発生の場合や、観桜期の交通渋滞等の連絡ツールとして活用できると思われる。保護者に関しても園に対しての不信感やクレームではなく、園がよく対応してくれている事は理解しているけれども、やはり連絡や説明が無いと不安。

教育長：我々自身の対応も足元を見据えながら進めなければならないと思っている。一つ一つ学習しながらつくりだしていきたいと思うので、宜しくお願いしたい。

何か本件に関してお尋ねがあった場合は、また我々にお聞かせ願う。

本日は急な件にも拘わらずご参集頂きありがとうございました。